特定非営利活動法人
富山県防災士会 会報
（ 日本防災士会・富山県支部 ）

第 46 号
令和 8 年 11 月 1 日
発 行 富山県防災士会
連絡先 090-3240-3821
（事務局長:小林格之）

会費見直しの検討案

「正会員会費の見直し」と「賛助会費収入の増額」について、これまで本会は、円滑かつ効率的な活動を推進するため、組織体制の再整備やデジタルツールを活用した連絡体制の構築に取り組んできました。また、会員の防災対応力の向上を目指し、独自の研修や他機関の研修・事業を活用した資質向上にも努めてまいりました。

一方、自然災害が頻発化・激甚化する中、広域災害時には、行政や社会福祉協議会、NPO 等と連携し、被災者支援を担う団体として、本会にはこれまで以上に組織的かつ専門的な役割が求められています。

今後も地域防災力の向上に取り組み、広域災害時に求められる役割を果たしていくためには、効率的な財政運営と財源確保による財務基盤の強化が必要です。このため、正会員及び賛助会員の会費について、見直しを検討しています。また、賛助会員の増加に向けた具体策についても、現在理事会で協議を進めています。

つきましては、会員の皆様から広くご意見を募集します。事務局より会費見直し案および回答フォームをメールもしくは郵便でお送りしますので、11 月 30 日までにご意見をお寄せください。いただいたご意見を踏まえ、会報第 47 号で最終案をご報告し、来年の総会での議決を経て決定したいと考えています。

（記：吉澤理事長）

設立 20 周年の記念事業（令和 9 年 8 月 21 日開催予定）の概要

富山県防災士会は、平成 19（2007）年 5 月 26 日 20 名の会員で設立し、日本防災士会富山県支部としても認定されました。平成 30 年に NPO 法人富山県防災士会となり、より一層信頼される組織となりました。現在は 500 名を超す会員数となり、地域防災力向上のため活動を進めているところです。

令和 9（2027）年 5 月に設立 20 周年の節目の年を迎えるに当たり、記念事業を実施したく次のとおり準備を進めています。どうぞよろしくお願いいたします。

1．基本コンセプト
「災害対応力の高いまちづくり」（案）

2．式典開催概要（案）
開催日時：令和 9 年 8 月 21 日（土）14:00～18:30
開催場所：オークスカナルパークホテル
内　　容：第 1 部　式典
理事長挨拶・来賓挨拶・表彰（功労者）
第 2 部　パネルディスカッション
テーマ・富山県防災士会の今後の役割について
第 3 部　懇親会

3．記念誌等
「20 年のあゆみ」20 ページ程度
20 周年記念プロモーションビデオ作成

4．災害対応先進地視察
「台湾防災関連視察事業」を検討しております。
日程等詳細については別途ご案内の予定です。

（記：島﨑副理事長）

北信越支部連絡会議 令和 8 年度総会・研修会の実施報告

7 月 18 日（土）北信越連絡会議の総会が、富山県広域防災センターで行われました。

出席者は、富山・石川・福井・新潟・長野の各県支部から 30 名の参加でした。

来賓として、富山県危機管理局長中林昇様からのご挨拶の後、今年度の幹事である富山県支部長の吉澤理事長が議長に選出され、事業および決算報告・事業計画および予算・連絡協議会から連絡会議への名称変更・北信越支部連絡会議役員の各案が審議され、可決されました。





総会終了後、今年 4 月にリニューアルされた隣接の四季防災館への見学体験を行いました。

令和 8 年度は、富山県支部が幹事支部として、北信越各県支部と、研修や災害発生時の連携を図ってまいります。

なお研修会は、12 月 5 日（土）に防災士研修会を予定しておりますが、北信越支部連絡会議での研修会と合同で実施する予定です。

災害時の連携に関しては、今年 8 月の氷見市をはじめとした石川・福井県での豪雨災害時には、北信越各支部との会議を行い、災害状況と支援活動について情報共有しました。今後他県からの支援が必要となった場合は、北信越の各県支部をはじめ、日本防災士会とも情報共有し、連携を図ることを確認しました。　（記：事務局）



第 2 回スキルアップ研修会の実施報告

9 月 12 日（土）婦中ふれあい館にて「防災ライジング」を実施しました。この「防災ライジング」は、防災カードゲーム「クロスロード」の進化版と言える内容です。講師は当会会員で「防災ライジング」の開発者でもある黒越友輔氏が担当しました。また、普及活動に協力している渡邉一廣氏と、これまで複数回の実施経験がある私（堀内理事）の 2 名が補佐を務めました。

当日は 48 名が参加し、1 グループ 6 名・全 8 グループに分かれてワークショップを行いました。各グループでは出された課題に対して活発な意見交換が行われ、熱く議論を交わす姿や、新たな気づきに感心する様子が見られました。



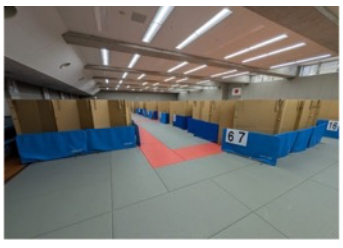
クロスロードからの進化を感じる点として、まず参加者側からは、グループごとに季節・時間・天気などの環境が明確に設定されることが挙げられます。課題の背景イメージがグループ内で統一されるため、議論が噛み合わなくなることがありません。

一方、講師（進行）側としては、使用するカードの種類や枚数を調整することで難易度を変えられるため、子供から大人まで幅広い世代に対応できるメリットがあります。また、内容がシンプルで導入のハードルが低いため、防災士としてのデビュー戦や初めての講師役にも最適です。この「防災ライジング」をきっかけに、地域で啓発活動を行える防災士が増えていくことを願います。

（記　堀内理事）

8 月 27 日氷見市豪雨災害を受けて

8 月 27 日、過去に記憶がないくらいの豪雨災害。気象庁の大雨災害による避難指示が富山県西部に初めて「レベル 5」と発令された。氷見市では、2 日間の降水量が 525 mmと観測史上記録を更新。被害も市主流河川が 9 か所氾濫し、住宅の浸水、田畑や道路の冠水、土砂崩れなど大きな被害が発生。



今回の豪雨災害を受けて、当会は氷見市の状況を確認し、8 月 29 日より氷見市へボランティア活動に入った。被害の大きかった十二町地区での避難所サポート、ふれあいスポーツセンターでは段ボールベッド、間仕切りの作成、避難者への傾聴などのサポートに連続 9 日間入って活動してきた。また、氷見市防災士ネットワークと共有し、防災士ネットワークの手が足りないところのサポートにも関わり、延べ 7 日間活動をしてきた。

能登半島地震の時もそうであったが、県防災士会と地区防災士会との繋がりが必要と感じ、今後もその繋がりが拡がっていくことを期待したい。　（記：柳田理事）

防災士紹介（金瀬 栄義）



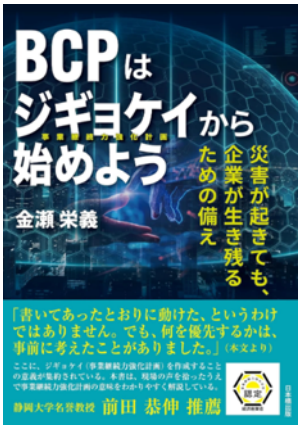
私は現在、主に独立行政法人中小企業基盤整備機構で、中小企業の経営支援に携わっています。また、自社では、企業のリスクマネジメントや、その実効性を高めるための PDCA をテーマに活動しています。こうした活動の一環として、防災士の資格を取得しました。防災は、地域住民だけでなく、地域の企業、公的機関、各種団体などが、それぞれの立場を生かし、連携して取り組むことが重要だと考えています。

これまでの企業支援やリスクマネジメントの経験を生かし、防災士会の活動に少しでもお役に立てればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

会員著書のご案内

当会会員の金瀬栄義氏（防災士・中小企業診断士）による著書が日本橋出版より発行されます。

「事業継続は防災ではなく経営である」。相次ぐ自然災害やリスクの複雑化に対し、企業に今求められるのは変化に強い経営です。本書は、国の制度である「事業継続力強化計画（通称：ジギョケイ）」を、企業の防災力＝経営力を高めるツールとして図表や事例とともに実践的に解説しています。



企業の事業継続（BCP）は、企業にとっては地域防災の要となり、防災士にとっても非常に重要な視点となります。ぜひこの機会に、ご自身の知識のブラッシュアップにお役立てください。

なお、著書の頒布につきまして、後日事務局より皆さまにメールもしくは郵便でご案内申し上げます。（事務局）

事務局からのお知らせ

富山県防災士会では、会員が講師となるスキルアップ研修・専門家が講師となるインクルーシブ、防災士研修会等、さまざまな研修会を実施しております。

会員の皆さまにおいては、防災活動のほか、日頃から福祉・行政をはじめ様々な分野で活躍されていると思います。

皆さまが携わっている分野で、防災に関連し、こんなことを皆さまにスキルアップ研修で広げたいと思われる方は、是非事務局までお知らせください。

また、このような研修を受けてみたいという希望もあればお知らせください。

今後の研修会充実につなげたいと思いますので、よろしくお願いいたします。